

2023（令和5）年度後期  
教学改善のための授業評価アンケート  
報告書

大阪成蹊大学

調査概要

授業評価アンケート結果

集計データ

調査票

## 調査概要

### 1) 調査目的

授業評価アンケートは、本学教学改革の一環として、授業改善を第一の目的として実施するものである。個々の授業に対して学生の率直な意見を聴取・理解し、学生にとって分かり易く、学習成果の得易い教育活動が行えるよう、授業の充実・改善、授業法の開発に資することを目的とする。受講者数が10名未満の授業を除き、ほぼすべての授業科目を対象としている。また、ピアノ科目にはピアノ科目用の授業アンケートを実施している。

### 2) 調査項目

#### <一般科目>

- ・回答者の基本属性（学籍番号、所属学部、学年、性別、学生区分）
- ・「授業への学生の取り組み」に関する項目（5問）
- ・「授業内容と授業の進め方」に関する項目（15問）
- ・「教育環境」に関する項目（2問）
- ・「授業を通して得られたこと」に関する項目（8問）
- ・自由記述項目（1問）

#### <ピアノ科目>

- ・回答者の基本属性（学籍番号、所属学部）
- ・「授業への学生の取り組み」に関する項目（5問）
- ・「授業内容と授業の進め方」に関する項目（10問）
- ・「授業を通して得られたこと」に関する項目（8問）
- ・自由記述項目（1問）

### 3) 調査対象

本学の2023（R5）年度後期開講の全授業（※ピアノ科目以外の10名未満のクラス、及び、13週目までに終了するクラスについては、担当教員の任意で実施）、及びこれらの授業を履修している全学生

### 4) 調査方法

質問紙（マークシート）とWEBアンケートシステムを併用して調査を実施した。

質問紙を用いた実施手順は、下記の通り。

- ①各授業の終了前15分程度を使用する。
- ②質問紙の配付・回収は、教員と、教員が指名した学生2名が協力して行う。
- ③回答時間は、授業時間終了2分前までを目安とする。
- ④質問紙の配付後は、教員は教室内で待機し、質問紙の回収を確認する。
- ⑤指名学生は質問紙を回収後、回収用封筒に封入・封緘し、教務課に提出する。

### 5) 調査期間

2023（R5）年12月22日（金）～2024（R5）年1月22日（月）（※原則、授業の13週目に実施）

## 6) 調査実施率と有効回答率

### ◆科目ベース

		対象科目数	実施科目数	調査実施率
配当 所属	経営学部	153科目	153科目	100.0%
	芸術学部	140科目	140科目	100.0%
	教育学部	242科目	242科目	100.0%
	国際観光学部	17科目	17科目	100.0%
	データサイエンス学部	6科目	6科目	100.0%
	看護学部	7科目	7科目	100.0%
	大学共通	260科目	260科目	100.0%
	教職課程	8科目	8科目	100.0%
	博物館学芸員	3科目	3科目	100.0%
	司書教諭	2科目	2科目	100.0%
調査 方法	対面調査	768科目	768科目	100.0%
	遠隔調査	70科目	70科目	100.0%
2023(R5)後期 計		838科目	838科目	100.0%

### ◆学生ベース

		延べ履修者数	延べ有効回答者数	有効回答率
所属 学部	経営学部	10,956名	8,274名	75.5%
	芸術学部	7,871名	6,474名	82.3%
	教育学部	9,213名	7,682名	83.4%
	国際観光学部	1,464名	1,059名	72.3%
	データサイエンス学部	731名	530名	72.5%
	看護学部	694名	629名	90.6%
	(所属学部不明、その他、端数調整)	317名	338名	
調査 方法	対面調査	23,395名	19,212名	82.1%
	遠隔調査	7,851名	5,774名	73.5%
2023(R5)後期 計		31,246名	24,986名	80.0%

※「延べ履修者数」は、学生1名が複数の調査対象科目に履修登録している場合、履修科目ごとに1名としてカウントした。

※「延べ有効回答者数」は、学生1名が調査期間中に複数の調査対象科目に出席し、且つ、アンケート用紙に回答した場合、回答した科目ごとに1名としてカウントした。ただし、アンケート用紙に1問も回答がない（回答者の基本属性を含む。自由記述は除く）ケースについては、無効回答として集計対象から除外した。

## 7) 調査結果の活用

アンケート結果はプロジェクトチームによって分析され、教学改革会議において報告される。また、授業ごとのアンケート結果は担当の教員に戻され、各教員はその結果を受けて授業改善計画書を作成し、次期授業の中で改善計画を実践していく。

本学では、教学改革会議のプロジェクトチームが中心となり、各学部・学科、FD委員会、教務係などと連携しながら、授業評価アンケートの結果を授業改善へとつなげていく。

## 授業評価アンケート結果（一般科目）

### ◆経年比較

※30問中「1」または「5」の解答が29以上のケースは除いている。

※履修者数10名未満の科目は除いている。

	2022年度後期		2023年度前期		2023年度後期	
	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差
<b>I. 授業への学生の取り組み</b>						
I-1. この授業への出席(参加)状況	3.90	1.22	4.03	1.18	3.81	1.24
I-2. この授業では、熱心に受講し、主体的に取り組んだ。	4.15	0.94	4.15	0.97	4.13	0.96
I-3. 「この授業の予習・復習・課題」に取り組むために費やした1週間あたり平均学習時間(授業時間を除く)	2.05	1.23	1.93	1.18	1.99	1.20
I-4. この授業の内容は私にとって	3.45	0.76	3.46	0.77	3.44	0.76
I-5. 私はこの授業のシラバスを活用した。	2.67	1.18	2.70	1.17	2.75	1.18
<b>II. 授業内容と授業の進め方</b>						
II-①-1. 全体として、教員の説明は簡潔で分かりやすかった。	4.08	0.96	4.13	0.96	4.14	0.92
II-①-2. 教員は学生の理解度に合わせて授業を進めていた。	4.07	0.97	4.10	0.96	4.12	0.93
II-①-3. 教員は学生が関心を持てるように工夫して授業を進めていた。	4.11	0.95	4.14	0.94	4.17	0.91
II-①-4. 教員は学びを深める方法(授業の受け方、課題への取り組み方、復習の仕方など)を教えていた。	4.14	0.92	4.16	0.92	4.19	0.89
II-①-5. 教員は学生の授業参加(質問、個人・共同作業、意見交換、議論、発表など)を促していた。	4.16	0.93	4.18	0.94	4.20	0.90
II-①-6. 教員は学生が取り組んだ課題に対して、適切なフィードバック(対応・意見・評価など)をしていた。	4.18	0.91	4.21	0.91	4.22	0.89
II-①-7. 教員は各回の授業のテーマや目標、科目全体の中での位置づけを明確に説明し、計画的に授業を進めていた。	4.24	0.85	4.25	0.85	4.27	0.82
II-①-8. テキストや授業資料は適切で分かりやすかった。	4.15	0.92	4.18	0.91	4.20	0.88
II-①-9-1. (講義・演習科目の場合)板書やスライド資料(パワーポイントなど)は適切で分かりやすかった。	4.16	0.90	4.20	0.90	4.20	0.88
II-①-9-2. (実技・実験・実習科目の場合)教員による実演や実習等の説明は分かりやすかった。						
II-①-10. 教員の授業に対する熱意を感じた。	4.28	0.84	4.29	0.84	4.31	0.81
II-①-11. 教員は授業の準備を十分にしていた。	4.33	0.81	4.36	0.79	4.35	0.79
II-①-12. 教員は学生がマナーを守るよう指導していた。	4.16	0.89	4.20	0.88	4.20	0.87
II-①-13. クラス全体が集中して学べるように教員が指導していた。	4.15	0.89	4.19	0.88	4.20	0.86
II-①-14. 教員はよりよい授業となるよう授業方法の改善に取り組んでいた。	4.18	0.89	4.20	0.88	4.22	0.85
(該当者のみ回答) II-①-15. 遠隔授業では教員は授業ツール(Classroom・Meet・Zoomなど)を適切に活用していた。	4.27	0.88	4.29	0.88	4.32	0.83
(該当者のみ回答) II-②-1. 対面授業では適切なICT環境(Wi-Fi、PCなど)が整っていた。	4.30	0.86	4.33	0.87	4.31	0.86

(該当者のみ回答) Ⅱ-②-2. 対面授業では適切な教室設備(空調、プロジェクター、机の配置など)が整っていた。	4.33	0.84	4.35	0.85	4.33	0.84
<b>Ⅲ. 授業を通して得られたこと</b>						
Ⅲ-1. この分野の専門的知識や技能が身についた。	4.22	0.83	4.23	0.83	4.26	0.80
Ⅲ-2. 学習力や思考力が高まった。	4.19	0.85	4.19	0.86	4.22	0.82
Ⅲ-3. 知的好奇心や探究心が高まった。	4.16	0.88	4.16	0.89	4.20	0.85
Ⅲ-4. 考え方や社会的視野が広がった。	4.18	0.86	4.19	0.88	4.23	0.83
Ⅲ-5. コミュニケーションする力(他人の意見を聞き、自分の意見を適切に表現する力)が高まった。	4.01	0.99	4.01	1.01	4.06	0.96
Ⅲ-6. シラバスに明記されている本授業における到達目標(知識、技能、態度等)を達成できた。	4.03	0.89	4.04	0.89	4.10	0.85
Ⅲ-7. これから生きていくうえで役立つと思う。	4.23	0.85	4.25	0.85	4.27	0.82
Ⅲ-8. 全体として、この授業を受けて満足した。	4.22	0.88	4.25	0.88	4.26	0.84

直近2期と比較して、各質問項目の平均値、標準偏差ともに大きな変化はなく、類似した傾向であることがうかがえる。調査項目「Ⅱ. 授業内容と授業の進め方」「Ⅲ. 授業を通して得られたこと」は、2022年後期の時点ですべての項目が4点台となっていたが、さらに平均値が高くなる傾向にあり、教員が授業内容を充実させていること、その成果が学生にも感じられる形で表れていることがわかる。

また、シラバスの活用についても、前期に比して平均値の上昇が見られ(I-5 学生のシラバスの活用で0.05、Ⅲ-6 シラバスに明記される到達目標の達成で0.06)、学生のなかでシラバスの活用が進んでいる様子が見られる。

◆平均（実施形態別）

	対面		遠隔		全体	
	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差
<b>I. 授業への学生の取り組み</b>						
I-1. この授業への出席(参加)状況	3.74	1.23	4.13	1.23	3.81	1.24
I-2. この授業では、熱心に受講し、主体的に取り組んだ。	4.17	0.96	3.96	0.94	4.13	0.96
I-3. 「この授業の予習・復習・課題」に取り組むために費やした1週間あたり平均学習時間(授業時間を除く)	1.98	1.23	2.04	1.08	1.99	1.20
I-4. この授業の内容は私にとって	3.41	0.76	3.54	0.73	3.44	0.76
I-5. 私はこの授業のシラバスを活用した。	2.73	1.19	2.83	1.11	2.75	1.18
<b>II. 授業内容と授業の進め方</b>						
II-①-1. 全体として、教員の説明は簡潔で分かりやすかった。	4.19	0.91	3.94	0.96	4.14	0.92
II-①-2. 教員は学生の理解度に合わせて授業を進めていた。	4.19	0.90	3.86	0.97	4.12	0.93
II-①-3. 教員は学生が関心を持てるように工夫して授業を進めていた。	4.22	0.89	3.97	0.95	4.17	0.91
II-①-4. 教員は学びを深める方法(授業の受け方、課題への取り組み方、復習の仕方など)を教えていた。	4.23	0.87	3.99	0.94	4.19	0.89
II-①-5. 教員は学生の授業参加(質問、個人・共同作業、意見交換、議論、発表など)を促していた。	4.28	0.85	3.85	1.00	4.20	0.90
II-①-6. 教員は学生が取り組んだ課題に対して、適切なフィードバック(対応・意見・評価など)をしていた。	4.28	0.85	3.97	0.99	4.22	0.89
II-①-7. 教員は各回の授業のテーマや目標、科目全体の中での位置づけを明確に説明し、計画的に授業を進めていた。	4.30	0.81	4.14	0.87	4.27	0.82
II-①-8. テキストや授業資料は適切で分かりやすかった。	4.23	0.86	4.05	0.94	4.20	0.88
II-①-9-1. (講義・演習科目の場合)板書やスライド資料(パワーポイントなど)は適切で分かりやすかった。	4.24	0.86	4.05	0.94	4.20	0.88
II-①-9-2. (実技・実験・実習科目の場合)教員による実演や実習等の説明は分かりやすかった。						
II-①-10. 教員の授業に対する熱意を感じた。	4.34	0.80	4.16	0.86	4.31	0.81
II-①-11. 教員は授業の準備を十分にしていた。	4.37	0.78	4.28	0.83	4.35	0.79
II-①-12. 教員は学生がマナーを守るよう指導していた。	4.28	0.82	3.82	0.96	4.20	0.87
II-①-13. クラス全体が集中して学べるように教員が指導していた。	4.28	0.81	3.85	0.94	4.20	0.86
II-①-14. 教員はよりよい授業となるよう授業方法の改善に取り組んでいた。	4.26	0.83	4.02	0.90	4.22	0.85
(該当者のみ回答) II-①-15. 遠隔授業では教員は授業ツール(Classroom・Meet・Zoomなど)を適切に活用していた。			4.37	0.82	4.32	0.83
(該当者のみ回答) II-②-1. 対面授業では適切なICT環境(Wi-Fi、PCなど)が整っていた。	4.37	0.82			4.31	0.86
(該当者のみ回答) II-②-2. 対面授業では適切な教室設備(空調、プロジェクター、机の配置など)が整っていた。	4.38	0.81			4.33	0.84
<b>III. 授業を通して得られたこと</b>						
III-1. この分野の専門的知識や技能が身についた。	4.30	0.78	4.10	0.87	4.26	0.80
III-2. 学習力や思考力が高まった。	4.26	0.80	4.06	0.90	4.22	0.82

Ⅲ-3. 知的好奇心や探究心が高まった。	4.25	0.82	4.03	0.93	4.20	0.85
Ⅲ-4. 考え方や社会的視野が広がった。	4.26	0.81	4.07	0.90	4.23	0.83
Ⅲ-5. コミュニケーションする力(他人の意見を聞き、自分の意見を適切に表現する力)が高まった。	4.16	0.90	3.63	1.11	4.06	0.96
Ⅲ-6. シラバスに明記されている本授業における到達目標(知識、技能、態度等)を達成できた。	4.14	0.84	3.92	0.89	4.10	0.85
Ⅲ-7. これから生きていくうえで役立つと思う。	4.31	0.79	4.08	0.92	4.27	0.82
Ⅲ-8. 全体として、この授業を受けて満足した。	4.30	0.82	4.10	0.93	4.26	0.84

2023年度前期と傾向は変わらない。学生がより熱心に取り組むのは対面授業である。また、調査項目「Ⅱ. 授業内容と授業の進め方」「Ⅲ. 授業を通して得られたこと」のいずれについても、対面のほうがよい結果となった。対面のほうが授業の充実はしやすく、学生にとっても成果が感じられやすいと言える。ただし、学生の授業への出席状況は、遠隔のほうが良い傾向にある。

なお、「Ⅱ. 授業内容と授業の進め方」「Ⅲ. 授業を通して得られたこと」について、2023年度前期では、2022年度後期のデータと比較して、遠隔授業で大きく平均値があがっていたが、その改善された状況は今期も維持されている。



◆条件ごとの「授業運営」尺度・「学修達成」尺度の得点の違い

アンケート項目のうちⅡ-①-1からⅡ-①-15までの平均を「授業運営」尺度とする。これは、教員の授業に対する工夫や熱意などを示す指標である。また、Ⅲ-1からⅢ-8までの平均を「学修達成」尺度とする。これは、学生が専門知識や思考力、コミュニケーション能力などを身につけたかどうかを示す指標である。

学部別

	授業運営			学修達成		
	平均値	標準偏差	度数	平均値	標準偏差	度数
経営	4.12	0.77	7871	4.09	0.78	8098
芸術	4.29	0.69	6174	4.27	0.69	6365
教育	4.29	0.75	7003	4.30	0.74	7097
国際観光	4.24	0.78	995	4.16	0.85	1038
データサイエンス	3.95	0.75	511	3.90	0.74	522
看護	4.13	0.78	618	4.12	0.80	622
全体	4.22	0.75	23172	4.20	0.76	23742

授業形態別

	授業運営			学修達成		
	平均値	標準偏差	度数	平均値	標準偏差	度数
講義	4.13	0.77	13276	4.12	0.78	13757
演習	4.33	0.71	9800	4.31	0.71	9895
実技実験実習	4.29	0.82	404	4.41	0.71	406
合計	4.22	0.75	23480	4.20	0.76	24058

授業規模別

	授業運営			学修達成		
	平均値	標準偏差	度数	平均値	標準偏差	度数
小 (10～19)	4.38	0.70	2292	4.36	0.70	2310
中 (20～39)	4.37	0.69	7142	4.34	0.69	7204
大 (40～79)	4.19	0.75	5309	4.19	0.75	5363
特大 (80～)	4.07	0.77	8737	4.05	0.79	9181
合計	4.22	0.75	23480	4.20	0.76	24058

## 学年別

	授業運営			学修達成		
	平均値	標準偏差	度数	平均値	標準偏差	度数
1年生	4.19	0.76	9493	4.16	0.78	9690
2年生	4.21	0.75	6947	4.21	0.74	7138
3年生	4.26	0.74	5180	4.25	0.74	5345
4年生	4.27	0.71	1532	4.25	0.71	1554
5年生以上	4.57	0.52	23	4.71	0.43	23
合計	4.22	0.75	23175	4.20	0.76	23750

## 性別

	授業運営			学修達成		
	平均値	標準偏差	度数	平均値	標準偏差	度数
男性	4.16	0.79	8308	4.16	0.79	8488
女性	4.25	0.72	14498	4.23	0.73	14881
その他 /答えたくない	4.06	0.73	287	4.07	0.75	299
合計	4.22	0.75	23093	4.20	0.76	23668

## 教員区分別

	授業運営			学修達成		
	平均値	標準偏差	度数	平均値	標準偏差	度数
専任	4.22	0.75	15324	4.21	0.76	15532
非常勤	4.22	0.74	8156	4.19	0.75	8526
合計	4.22	0.75	23480	4.20	0.76	24058

学部別では、「芸術」と「教育」が高く、「データサイエンス」がやや低い。しかし、2023年度前期に比して、「経営」「国際観光」が授業運営・学修達成とも上昇している（[経営]授業運営：+.06，学修達成：+.08，[国際観光]授業運営：+.09，学修達成：+.08）。「データサイエンス」と「看護」の学修達成も上昇傾向にある（[データサイエンス]+.07，[看護]+.08）。

授業形態では、これまでもっと高いことが多かった「実技・実験・実習」の授業運営の評価が前期より低下していた。授業規模では、履修者数が少ない授業ほど、両指標の値が高かった。

学年別は、前期は4年生が低かったが、今期は例年どおり4年生・5年生以上で両指標の値が高くなる傾向に戻った。性別に関しては女性の方が両指標の値が高かった。

教員区分は、授業運営については専任・非常勤とも同じ値で、学修達成については専任の方が高かった。非常勤の授業運営の評価が前期より上昇している。

## ◆相関分析

### 相関（全体）

	I-1	I-2	I-3	I-4	I-5	授業運営	学修達成
I-1 出席	—						
I-2 熱心さ	0.28	—					
I-3 学習時間（授業外）	0.09	0.18	—				
I-4 授業の難易度	-0.03	-0.02	0.12	—			
I-5 シラバス活用	0.04	0.17	0.23	0.02	—		
授業運営	0.05	0.39	0.08	-0.17	0.16	—	
学修達成	0.08	0.42	0.12	-0.17	0.19	0.85	—

### 相関（対面）

	I-1	I-2	I-3	I-4	I-5	授業運営	学修達成
I-1 出席	—						
I-2 熱心さ	0.29	—					
I-3 学習時間（授業外）	0.10	0.19	—				
I-4 授業の難易度	-0.03	-0.01	0.11	—			
I-5 シラバス活用	0.04	0.17	0.22	0.03	—		
授業運営	0.06	0.36	0.10	-0.15	0.16	—	
学修達成	0.09	0.39	0.14	-0.15	0.18	0.86	—

### 相関（遠隔）

	I-1	I-2	I-3	I-4	I-5	授業運営	学修達成
I-1 出席	—						
I-2 熱心さ	0.33	—					
I-3 学習時間（授業外）	0.04	0.15	—				
I-4 授業の難易度	-0.07	-0.06	0.15	—			
I-5 シラバス活用	0.04	0.20	0.26	-0.04	—		
授業運営	0.12	0.46	0.04	-0.21	0.22	—	
学修達成	0.14	0.49	0.09	-0.22	0.25	0.83	—

相関係数が0.20以上の箇所に網掛けをした。傾向は例年と同様である。「授業運営」と「学修達成」の相関は非常に高く、「熱心さ」と「授業運営」「学修達成」の相関も高い。よい授業運営と学生の熱心な取り組みの結果、学修達成も得られていると考えられる。前期同様、遠隔では「シラバスの活用」と「授業運営」「学修達成」との相関が高く、遠隔授業においては、効果的にシラバスを活用することが学びへの意欲や学修達成感の向上につながっていると考えられる。

## 授業評価アンケート結果（ピアノ科目）

### ◆経年比較

※23問中「1」または「5」の解答が22以上のケースは除いている。

	2022年度前期		2022年度後期		2023年度前期	
	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差
<b>I. 授業への学生の取り組み</b>						
I-1. この授業への出席(参加)状況	4.24	0.98	4.16	1.05	3.80	1.14
I-2. この授業では、熱心に受講し、主体的に取り組んだ。	4.55	0.79	4.47	1.05	4.40	0.97
I-3. 「この授業の予習・復習・課題」に取り組むために費やした1週間あたり平均学習時間(授業時間を除く)	2.50	1.18	2.47	1.20	2.44	1.19
I-4. この授業の内容は私にとって	3.43	0.67	3.30	0.60	3.55	0.70
I-5. 私はこの授業のシラバスを活用した。	2.55	1.18	2.40	1.13	2.44	1.20
<b>II. 授業内容と授業の進め方</b>						
II-1. 全体として、教員の説明は簡潔で分かりやすかった。	4.57	0.73	4.67	0.66	4.60	0.64
II-2. 教員は学生の理解度に合わせて授業を進めていた。	4.60	0.68	4.67	0.68	4.58	0.70
II-3. 教員は学生が関心を持てるように工夫して授業を進めていた。	4.59	0.64	4.60	0.72	4.56	0.65
II-4. 教員は学びを深める方法(授業の受け方、課題への取り組み方、復習の仕方など)を教えていた。	4.63	0.63	4.64	0.65	4.57	0.64
II-5. 教員は学生が取り組んだ課題に対して、適切なフィードバック(対応・意見・評価など)をしていた。	4.67	0.61	4.70	0.64	4.61	0.60
II-6. 教員は各回の授業のテーマや目標、グレード全体の中での位置づけを明確に説明し、計画的に授業を進めていた。	4.58	0.66	4.64	0.67	4.58	0.63
II-7. 教員による実演の説明は分かりやすかった。	4.64	0.64	4.66	0.70	4.58	0.69
II-8. 教員の授業に対する熱意を感じた。	4.70	0.55	4.72	0.62	4.60	0.66
(該当者のみ回答) II-9. 対面授業では適切な教育設備(空調など)が整っていた。	4.62	0.62	4.67	0.66	4.48	0.73
(該当者のみ回答) II-10. 遠隔授業では教員は授業ツール(Classroom・Meet・Zoomなど)を適切に活用していた。	4.58	0.65	4.61	0.70	4.49	0.74
<b>III. 授業を通して得られたこと</b>						
III-1. ピアノ技能が身についた。	4.65	0.58	4.68	0.58	4.56	0.62
III-2. 楽曲の理解力が高まった。	4.57	0.61	4.58	0.68	4.51	0.62
III-3. 音楽に関する知的好奇心や探究心が高まった。	4.48	0.69	4.44	0.79	4.48	0.67
III-4. 音楽に関する考え方や社会的視野が広がった。	4.41	0.75	4.34	0.84	4.40	0.76
III-5. 表現する力が高まった。	4.48	0.69	4.51	0.71	4.47	0.68
III-6. シラバスに明記されている本授業における到達目標(知識、技能、態度等)を達成できた。	4.31	0.77	4.30	0.83	4.34	0.76
III-7. これから生きていくうえで役立つと思う。	4.62	0.61	4.63	0.71	4.50	0.73
III-8. 全体として、この授業を受けて満足した。	4.67	0.60	4.68	0.67	4.55	0.70

直近2期と比較して、各質問項目の平均値がやや低下傾向にある。I-1「学生の参加状況」やI-4「授業の難易度」、II-9「教育設備」で比較的大きな変化がみられる。とはいえ、調査項目II・IIIはすべての項目が4点台で、4.5以上の項目も多く、教員が授業内を充実させていること、その成果が学生にも感じられる形で表れていることがわかる。

## ◆相関分析

### 相関（全体）

	I-1	I-2	I-3	I-4	I-5	授業運営	学修達成
I-1 出席	—						
I-2 熱心さ	0.25	—					
I-3 学習時間（授業外）	0.12	0.22	—				
I-4 授業の難易度	-0.12	0.02	-0.01	—			
I-5 シラバス活用	-0.04	0.12	0.01	-0.10	—		
授業運営	0.07	0.10	0.00	-0.28	-0.01	—	
学修達成	0.16	0.20	0.06	-0.28	0.06	0.78	—

相関係数が0.2以上の箇所に関係を網掛けをした。「授業運営」と「学修達成」の相関が非常に高いこと、「熱心さ」と「学修達成」の相関が見られることは、一般科目と同じである。しかし、今期は「熱心さ」と「授業運営」に関連がない（ $p=.091$ ）ことがこれまでと異なる。シラバスを活用している学生ほど授業外での学習時間が長いという関連も見られなくなった（2023年度前期は $r=.21$ ）。また、「授業の難易度」と「授業運営」・「学修達成」の間に負の相関が強くなるようになった。難しいと感じる学生が増えていることが影響していると考えられる。